



No.118
2002-9-10

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階
電話 / FAX : 03-5251-2133 e-mail : jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

論文誌特集号「第二言語教育とCALL」のご案内(第1報)

社会・経済・文化など、さまざまな人間活動がグローバル化し、インターネットを媒介にした国際的な情報交換が日常のものとなるなど、互いの文化と言語を尊重した交流が盛んになるにつれて、世界的に、母語以外の言語即ち第二言語を、コミュニケーションのために習得する必要と要望が急速に増してきました。国内外における第二言語としての日本語教育に対する需要の増大は、その典型的な現れであり、一方、わが国の外国語教育においても、中等教育におけるコミュニケーション重視の英語カリキュラムの導入、就学前や小学校における英語教育・国際理解教育の導入をはじめ、高等教育におけるさまざまな第二言語学習の改善が検討され、実施されてきました。

他方、わが国の国語教育、即ち第一言語の教育においても、こうした新たな第二言語教育の影響の下に、音声言語としての日本語や方言の指導の重要性が認識され、新たなコンテンツの必要も生じています。

また、構成主義、生涯学習、グループ学習など新たな学習観の浸透によって、個々の学習者やグループに適した学習環境や内容が求められる一方、第二言語学習者の言語的背景、学習目的、動機づけ、習得段階などは、一層多様化する傾向にあり、個々の学習者に対して効果的な学習方法をどう実現するかは緊急の課題です。

今この多様化・最適化の問題の解決のために、改めて大きな期待を寄せられているのが、教育方法を含む教育システムデザインの学としての教育工学であり、その手段としての情報通信技術(ICT)です。現在では、知識基盤型社会に向けて、マルチメディア技術を実装したコンピュータやネットワークが、ようやく学校や家庭に普及してきました。モバイル端末やテレビ会議システム、仮想現実感(VR) 音声認識・処理技術も応用の時期を迎えています。

本号目次

論文誌特集号「第二言語教育とCALL」	秋の産学協同セミナー・冬の合宿研究会開催案内 --- 6
のご案内(第1報) ---- 1	第9期第10回理事会・評議員会(合同)議事録 --- 7
全国大会のお知らせ ----- 3	夏の合宿研究会報告 ----- 8
時限付き分科細目「科学高等教育」	投稿規程と手引き(英語版) ----- 10
の新設等の速報 ---- 3	新入会員/学会日誌等 ----- 12
研究会開催案内・研究会の発表募集 ----- 4	

第二言語教育を支援するシステムとしては、まず、オーディオやビデオによる LL(Language Laboratory) が開発され、その後コンピュータによる CALL (Computer-Assisted Language Learning) システムに発展しました。そして、今、上述したような要素技術の開発と情報インフラの整備によって、多様な次世代 CALL システムと学習コンテンツが出現しようとしています。

一方、対象言語のコンテキストを形成する文化とは異なる文化を学習者が持つという点で、第一言語教育とは大きく異なる第二言語教育の、効果的な指導法やカリキュラム構成法の開発、それに基づいて学習環境や学習コンテンツをデザインする分野、学習コンテンツを大量に開発し共有する分野、システムやコンテンツの学習効果を評価しその品質を高める分野など、教育工学に課せられ、まだ解決はこれからという分野も多々あります。

そこで、日本教育工学会論文誌では、第二言語教育について、教育方法など、教育システムデザイン方法の開発、CALL など、ICT 利用システムの開発、ならびに教育実践によるシステムの分析・評価に関する特集号を企画し、下記要領により論文を募集することにいたしました。なお、第二言語教育との比較など、第二言語教育と相関する第一言語教育に関する論文も歓迎します。これらの分野で研究や教育実践をしておられる会員各位には奮ってご投稿くださいますようお願いいたします。

1. 対象分野

以下、第一言語、第二言語とは、それぞれ、学習者にとっての母語ないし媒介語とそれ以外の言語を意味し、言語の如何を問いません。

[第二言語教育に関する分野]

- 教育方法、カリキュラム開発の方法など、教育システムデザイン方法の開発と、教育実践の分析と評価
- デジタル学習環境やデジタルコンテンツのデザイン
- CALL など、ICT を利用したシステム、コンテンツあるいはコースの開発と評価
- CALL など、ICT を利用した教育実践の分析と評価
- インターネットを利用した言語教育、異文化理解・国際理解教育
- テキストベース、データベースの開発と評価
- 音声言語教育
- 音声認識/合成技術、音声処理技術、仮想現実感(Virtual Reality)、複合現実感(Mixed Reality)、ユビキタスコンピューティングなど各種要素技術の第二言語教育への応用
- その他、第二言語教育の教育システムのデザインと情報通信技術の利用にかかわるあらゆる分野

[第二言語教育と相関する第一言語教育に関する分野]

- 教育システムデザイン方法の開発、評価、情報通信技術応用システムなどにおいて、第二言語教育との比較など、第二言語教育と相関する第一言語教育の分野

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、論文、資料、寄書を募集します。投稿規定ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです。なお、ショートレターとして既に掲載されている内容あるいは研究会や全国大会で発表された内容を発展させ、論文として投稿することも可能です。

3. 論文投稿締切日: 2003年2月1日(土) (2003年10月発刊予定)

4. 論文送付先: 日本教育工学会論文編集委員会事務局

5. 問い合わせ: 同上

日本教育工学会 第18回全国大会のお知らせ

前号でもお知らせしましたように、日本教育工学会第18回全国大会が長岡技術科学大学におきまして、2002年11月2日(土)~4日(月)に開催されます。現在、大会プログラムの編集を行っております。10月初旬までにはお届けできると存じます。しばらくお待ち下さい。なお、学会ホームページ <http://www.japet.or.jp/jet/> に、シンポジウム、課題研究の趣旨と登壇者が掲載されておりますので、ご参照下さい。

速報！！

時限付き分科細目「科学高等教育」の新設

平成15年度科学研究費補助金の時限付き分科細目として申請をご検討ください

21世紀を迎え、科学はますます発展・広域化しつつあり、高度な資質を持った研究者・技術者の養成が不可欠である。一方、近年「数学嫌い」、「理科離れ」といった現象が見られ、大学教育の質の維持が著しく困難なものとなっており、学部教育、特に理学系基礎科目教育を、初等中等教育とも一体になった体系的な教育システムとして考える必要がある。

教員が単に学問における専門知識を有するのみならず、教育方法についても十分な技能を持つことが必要とされるようになってきており、こうした現状を打開するためには、大学、大学院を含む「科学高等教育」をそれ自身として学問的に研究し、その成果を各大学の教育に反映させることが必要である。

尚、基盤研究(C)(一般)として申請することになります。新規課題の研究期間は2年間となります。

特定領域研究：新世紀型理数科系教育の展開研究（理数科系教育）

平成15年度からは2ヶ年継続研究が原則となりました。このため、単年度につき、申請額300万円~500万円程度（ただし、教育用コンテンツ開発（制作費）を伴う研究を含む場合、申請額は2,500万円程度まで）の研究が公募されます。本年度の公募のより詳しい内容や、平成14年度の採択状況、研究内容などについては、<http://risuka.ei.tohoku.ac.jp/> を参照してください。

- A01 教育内容と学習の適時性に関する研究（含む国際比較、実態調査）
- A02 論理的思考力や創造性、独創性を育むための教育内容や指導方法、教材等の研究
- A03 1Tを活用した新たなカリキュラムの研究
- A04 1Tを利用した先進的で実効性の高い、教育・学習システムの研究
- A05 情報化など、社会や学校の変化が児童生徒の心身の発達や理数科系への学習の意欲等に及ぼす影響及び対応に関する研究

（文責：清水康敬）



研究会の開催

テーマ 遠隔教育と協調学習による新しい学習環境のデザイン

日時：2002年9月28日(土)

会場：上越教育大学(西城地区) 学校教育総合研究センター 1階・平面活動室

開催担当：井上久祥(上越教育大学 学校教育総合研究センター)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。
午前の部(10:00~11:40)

(1) 「教員養成大学における情報教育実践に関する知識習得の試み ~教育情報化推進校内リーダー研修用教材を活用して~」

浦野弘(秋田大学), 南部昌敏(上越教育大学)

(2) 「教員養成大学における情報教育環境の構築と課題」

古川健一(福岡教育大学)

(3) 「情報教育における学び合いの研究」

水落芳明(上越教育大学大学院), 西川純(上越教育大学)

(4) 「進路指導におけるプレゼンテーション教育の効果 高校生の進路選択に対する自己効力を発表活動の中で高める試み

笹谷聡史(上越教育大学大学院), 小川亮(富山大学), 二谷貞夫(上越教育大学)

----- お昼休み(11:40~13:00) -----

午後の部(13:00~15:45)

(5) 「課題解決型学習のための分散Webポートフォリオシステム用相互作用支援機能の開発について」

○岡田雅樹・正司和彦(兵庫教育大学)

(6) 「情報教育における観点別評価のための目標系列記述ツール - ルーブリックの記述に対し整合性を維持する仕組み -」

井上久祥(上越教育大学)

(7) 「ウェアラブルコンピュータを活用した野外学習支援システムの開発」

森田和延(富山大学大学院), 柳瀬康宏・堀雅和(インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス), 黒田卓・山西潤一(富山大学)

----- 休憩(14:15~14:30) -----

(8) 「仮想環境を用いた遠隔教育における協調学習支援ツールについて」

三浦克宜・野村学(北海道情報大学大学院), 斎藤一・齋藤健司・前田隆(北海道情報大学)

(9) 「統合的な学習情報管理のためのe-Learningシステム: RAPSODY -」

野中和幸・田中善純・関一也(電気通信大学大学院), 香山瑞恵(専修大学),

岡本敏雄(電気通信大学大学院)

(10) 「分散協調学習基盤と学習運営システムの開発」

香山瑞恵(専修大学), 岡本敏雄(電気通信大学大学院), 原潔(日本ユニシス),

伊東直幸(キーウェアソリューションズ)

----- 閉会の挨拶(15:45) 岡本敏雄 研究会委員長 -----

会場へのアクセス(周辺の地図 <http://official.juen.ac.jp/university/tizu2.jpg>)

・最寄駅, 信越本線「高田駅」下車, 徒歩約15分, 「高田駅」からタクシーで約5分。

・北陸本線・信越本線「直江津駅」下車, 「直江津駅」からタクシーで約25分(料金2,500円前後)。

(ご注意ください!) 学校教育総合研究センターは西城地区にあります。上越教育大学本部(山屋敷地区)とは敷地が離れておりますのでご注意ください。

懇親会 研究会終了後に懇親会を計画しています。多くの方々の参加をお待ちしております。

会場連絡先

〒943-0834 新潟県上越市西城町1-7-2 上越教育大学 学校教育総合研究センター 井上久祥

電話: 025-525-6926(直通) FAX: 025-525-9860(センター共通) 電子メール: inoue@juen.ac.jp



12月は早稲田!

高等教育におけるFDと教育工学

日 時：2002年12月14日(土)

会 場：早稲田大学 西早稲田キャンパス16号館2階大会議室

開催担当：三尾忠男(早稲田大学教育学部)

募集内容：FD (Faculty Development) は高等教育機関において重要な働きをもち、教育工学研究の手法と成果はその実践において重要な役割を期待されています。本学会の全国大会においても発表件数が増え、中心課題になりつつあります。今回の研究会では、具体的な授業改善の研究はもちろん、FD活動やその運営の方法など、FDに関する幅広い話題の提供をお待ちしております。また、初等・中等教育における研究・実践との交流も検討課題であると思われます。高等教育の関係者だけでなく、さまざまな領域の方々の発表、参加をお待ちしております。なお、教育工学一般の発表もお待ちしております。

応募方法：研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。なお、当該研究会の「発表申込状況」で申し込まれた方の氏名が確認できます。

申し込み締切：2002年10月14日(月) 到着分まで受け付けます。締切後、申し込まれた方宛に10月20日頃に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。なお、申し込まれる際には、研究会Web Pageにて事前に原稿見本とキーワード一覧をご覧くださいませようお願いいたします。

原稿提出期限：2002年11月14日(木) 必着でお願いいたします。原稿提出先は、学会本部事務局です。執筆要項に記載された宛先にお送りください。

研究会の報告と今後の予定



7月27日(土)に「総合的な学習」と評価をテーマに岩手大学で研究会が開催されました。9件の研究発表と、水越先生、現職の先生方を迎えてのパネル討論会を開催しました。ポートフォリオ評価などの新しい考え方や評価の難しさ等が活発に議論されました。

2002年度の研究会はあと3回あります。会場では、発表者との質疑はもちろんですが、同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まり、さまざまな方と意見交換する場としても活用していただいております。会員の皆様には、教育工学領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用いただきたいと思います。

- ・ 1月25日(土) 研究会開催『教育工学的アプローチによる教科教育の改革』(和歌山大学)
- ・ 3月29日(土) 研究会開催『情報教育における教員研修と授業改革』(茨城大学)

研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計500ページほどになります。価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
TEL/FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

研究会委員会からのお知らせ

平成14年度の研究会委員会の構成は次の通りです。よろしくお願いいたします。

平成14年度 研究会委員会 委員構成

研究会委員長：岡本敏雄(電気通信大)
副委員長：正司和彦(兵庫教育大)
研究会幹事：松居辰則(電気通信大)
森廣浩一郎(兵庫教育大)
副幹事：野中陽一(和歌山大)
近藤智嗣(MINE)
委員：(五十音順)
伊藤一郎(東京学芸大)・井上久祥(上越教育大)・
植野真臣(長岡技科大)・大河原清(岩手大学)・
大作勝(長崎大)・加藤隆弘(金沢大)・
柴田好章(名古屋大)・鷹岡亮(山口大)・
田中博之(大阪教育大)・中野彰(武庫川女子大)・
波多野和彦(NIME)・本田敏明(茨城大)・
三尾忠男(早稲田大)・美馬のゆり(はこだて未来大)・

宮田仁(滋賀大)・村瀬康一郎(岐阜大)・
米盛徳市(琉球大)

研究会に関するご意見・ご希望・魅力的な研究会テーマの提案・研究会での企画などお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

研究会全般に関するお問い合わせ
研究会Web Pageに関するお問い合わせ
研究会発表の申込、変更等に関するお問い合わせ
原稿執筆に関するお問い合わせ
研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp
年間購読に関するお問い合わせ
学会本部事務局 jet-office@japet.or.jp

秋の産学協同セミナー 開催案内

e-learning によるリカレント教育

日 時： 平成 14 年 11 月 8 日（金）午後 1 時～午後 5 時

会 場： 東京大学工学部 2 号館セミナー室 2

交通手段 営団地下鉄南北線東大前駅徒歩 7 分

営団地下鉄千代田線根津駅徒歩 10 分

都営地下鉄大江戸線または営団地下鉄本郷三丁目駅徒歩 15 分

情報化や国際化など社会の急速な変化に伴って、社会人を対象としたリカレント教育やダブルスクールの必要性が高まってきている。ネットワークを活用した e-learning は、学習機会から場所と時間の制約を解き放す点で、あるいは多様なデジタルコンテンツや同期と非同期の 2 つのコミュニケーションシステムを活用できる点で、新しい形でリカレント教育サービスやダブルスクール受講を可能にする可能性がある。

本セミナーでは下記のように、e-learning のコンテンツ制作や事業化に取り組んでいる実践者から知見を発表してもらい、それに続くパネルディスカッションで、コンテンツや付加サービスのあり方と開発方法、事業化の進め方などについて議論したいと思います。

発表 1 ミッションクリティカル e-learning

中元志都也・(株)ラーニング・テクノロジー・コンサルティング CEO

発表 2 同期型 e-learning の可能性

夏目道夫・(株)マクニカ マクニカネットワークカンパニー課長

発表 3 LMS と LCMS の必要性

亀井 朗・クリック・トゥー・ラーン(株)代表取締役社長

パネルディスカッション competency up のための e-learning

司 会：岡本敏雄・電気通信大学

パネリスト：中元志都也、夏目道夫、亀井 朗

指定討論者：大川恵子・慶応義塾大学、山内祐平・東京大学

注 1：都合により講師に変更がある場合があります。

注 2：日本教育工学会会員でなくても参加できます。

注 3：参加申込み、問い合わせは、氏名・住所・職業・連絡先をご記入の上、下記のメール宛にお申し込み下さい。

五藤 博義：goto@fushigi.net [03-5958-1751]

2002 年度 冬の合宿研究会 開催案内

「総合的な学習の時間の実践と評価（仮題）」をテーマに、2003 年 2 月 15 日（土）-16 日（日）福島県で開催を予定しています。ご期待下さい。

日本教育工学会第9期第10回理事・評議員会（合同）議事録

日 時：平成14年6月8日（土） 13:00～13:40

会 場：東京工業大学 ケータリング食堂

出席者：清水康敬会長、赤堀侃司副会長、池田 央副会長、伊藤紘二、大谷 尚、岡本敏雄、佐伯 胖、坂元 昂、正司和彦、菅井勝雄、鈴木克明、園屋高志、永野和男、中村紘司、中山 実、南部昌敏、前迫孝憲、美馬のゆり、村川雅弘、山西潤一、横山節雄、吉田貞介の理事、水越敏行監事、小林事務局次長
赤倉貴子、大隅紀和、近藤勲、澤本和子、永岡慶三、中村直人、成田雅博、野嶋栄一郎、堀田龍也、松居辰則、矢野米雄の各評議員

1. 第9期第9回理事会議事録の承認

資料1に基づき、異議なくこれを承認した。

2. 会員の移動について

- (1) 19名の新入会員（正会員10名、学生会員9名）を承認した。
- (2) 正会員6名、准会員4名、学生会員1名計11名の退会を承認した。
- (3) 14名の種別変更を承認した。
- (4) 不明会員の紹介があった。

2002年6月8日現在、会員総数1,888名（名誉会員2名、正会員1,558名、准会員131名、学生会員165名、特殊会員6名、維持会員26名）との報告があった。

3. 今後の学会のあり方について

・資料3により、清水会長から学会論文誌の発行について提案説明があり、異議なく承認した。

4. その他

- (1) 評議員から色々な意見・要望をいただき、今後の学会運営に参考にすることにした。
- (2) 吉田理事より、第18回全国大会の準備状況について報告があった。
- (3) 赤堀理事より、論文誌の改革に関連した説明があり、その中で英文誌の積極的な投稿のお願いがあった。
- (4) 清水会長より、会員名簿の発行を2002年度中に行いたいとの説明があった。
- (5) 村川理事より、各賞を推薦する際には、推薦理由を付けてほしいとの依頼があった。
- (6) 坂元理事より、ニューズレター116号25ページに掲載されている、科学研究費補助金の「教育工学」のキーワードは、修正の必要があれば今後検討するとの報告があった。
- (7) 坂元理事より、「NIMEワールド（国際教育チャンネル）」が8月よりスタートする旨の報告があった。

・次回開催 第9期第11回：平成14年7月20日（土）16:00～ JAPET会議室

以 上

日本教育工学会「夏の合宿研究会」実施報告

園田学園女子大学 原 克彦

今年の「夏の合宿研究会」は、長崎市にある公立学校共済組合宿泊所「セントヒル長崎」で8月17日(土)と18日(日)の2日間にわたり開催された。お盆明けという事情が重なったにもかかわらず、50名を超える参加があった。例年、この合宿研究会は、開催地の学校教員の方が中心だったが、今回は若手の研究者を中心にソフトウェア開発者も参加し、参加構成メンバーに異変が起きた研究会となった。そして、「インターネットを利用した遠隔教育の現状と将来」をテーマに、実践発表4件、ネットワーク関連のコンテンツ紹介4件、3つの小テーマに分かれたナイトセッションなど活発な意見交換が行なわれた。遠隔教育の実践の難しさや問題点などが少し浮き彫りになった意義ある研究会となった。

1日目(8月17日)

問題提起：企画委員会委員長 永野和男(聖心女子大学)

今回の合宿のテーマになっている遠隔教育に関する研究の重要性とこれからの方向性に少しでも役に立つような合宿研究会になるようにとの提案があった。

セッション1：遠隔教育の現状 総合司会 木原俊行(大阪市大)

このセッションは、木原先生の総合司会のもと、小学校から大学までの遠隔教育の実践を中心とした報告が行われ、そのあと討議が行われた。

最初に東京理科大の赤倉貴子先生から総論として「遠隔教育の方法の現状」の報告が行われた。大学の社会人受け入れに関連した遠隔教育の拡大と、文教行政や法制度、実施の現状などについての概要が紹介された。特に単位認定では、遠隔教育の実施形態との関連や単位認定を前提とした本人認証、個人情報を対象とするプライバシー侵害問題(人権的保護)、情報セキュリティーなどの問題が報告された。

次に、小学校の実践例として、郷土愛を育てる授業展開でのグループ別遠隔交流の実践報告があった。長崎大学の森田裕介先生と藤木卓先生が中心となり、学校からの授業内容に対応した「多地点接続と携帯電話によるグループ別交流を取り入れた道徳遠隔授業の実践」である。最新の技術を活用したバーチャルクラスルームを構築し、長崎市内、対馬、種子島間の小学校でグループ別の交流学习を実施したというもので、学校からの教育内容を支えるには、大学が小学校に対してどのように技術等の支援すればよいかという内容も含まれている。

実践例の2件目は、東彼杵町立千綿中学校の大場祥一先生から、「生徒が主体的に「学び」「考え」「語り合う」平和に関する学習の取り組み」という演題で、沖縄県那覇市立古蔵中学校との交流報告が行われた。中学校の実践例を聞く機会は少ないので、貴重な報告となった。

長崎県立吉岐高等学校の藤田毅先生からは、高校総体の様子を現場から学校へインターネット技術を活用して生中継された報告があった。生徒が体育館に集合して大スクリーンで観戦しながら応援する風景のビデオ紹介もあり、実際の雰囲気がよく伝わってきた。生徒が現場からの中継班と学校での受信班に分かれ、番組構成の企画や実況アナウンサーの訓練など、主体的に活動する様子なども報告された。しかし、学校の予算範囲内で実施できる生中継では、動画像が荒く、生徒に大会現場の臨場感を伝えるにはもうすこし鮮明でなめらかな映像が必要で、それらが今後の課題だとの報告があった。

最後は、園田学園女子大学から、「大学におけるe-ラーニングシステムの運用例」が8年間の実践とともに報告された。報告者の伊藤剛和先生からは、学習者のモチベーションによって、運用方法が異なる



ることや、そのための様々な仕組みが必要だという報告があり、長年の経験からくる実践のテクニックなども少し紹介された。

基調講演 永野和男（聖心女子大）

前段では、情報教育に関する動向についての簡単な紹介があった。その後、当初準備された講演内容を前セッションの発表を受けた「遠隔教育」の歴史やこれからの方向性の講演に切り替えられ、数年前の遠隔教育からの急速な技術進展と、それに関する考え方の変化などの話があった。



懇親会

立食形式の懇親会があり、参加者相互での有意義な懇親が図られた。

ナイトセッション

実践者班、システム開発者班、若手研究者班に分かれ、各班で次のような話題提供と討議が夜遅くまで行われた。

実践者班では、「博物館が目指す遠隔交流学习の取り組み - 博物館と学校がつくる総合的な学習 - 」の話題が岸田隆博指導主事（兵庫県立人と自然の博物館）から報告され、同館で子どもたちが利用する「昆虫検索システム」の紹介が笹尾美沙さん（園田学園女子大学）から行われた。学校教育における博物館の利用の実態や問題点などについて活発に討議され、児童・生徒が博物館をはじめとする社会教育施設などを利用する場合に学校で何を指導すべきか、また教師がどのようなことを知っておくべきかについて遅くまで論議が続いた。

システム開発者班では、東みゆきさん（園田学園女子大学）の「メールマガジン配信システム」の話題をもとにして、開発者や管理者などの立場からみたシステムに必要な機能やインターフェイス開発の実際について話し合われた。

大谷尚先生（名古屋大学）が中心となって進めた若手研究者班では、道之後良・白沢勉両氏（東京理科大学工学研究科）から「遠隔教育による生涯学習の必要性 - 社会人学生が考える遠隔教育 - 」が紹介され、遠隔教育を対象とした研究の方向性や教育工学的なアプローチについての話し合いが行われた。また、場所の都合で宿舍ロビーに会場を移してからは、学部生である内橋美佳さん（園田学園女子大学）から「シンガポール IT 教育訪問記」として、自身が実際に見聞してきたシンガポールの小学校の報告があり、参加された研究者からの質問に対応しながら、研究の進め方や方向の示唆を得ていた。

2日目（8月18日）

セッション2：遠隔教育の将来「新たな学習形態の提案」

2日目のセッションでは、一般の子どもたちを対象としたe-ラーニングなどを先進的に取り入れ、新しい形態の学習方法を展開している方から実際の運用事例の話聞き、これからの学校教育の方向などについて考えることとなった。

スズキ教育ソフト株式会社からは、「WBTシステムの導入とドリルシステムへの応用」と「Webサーバと連携した地図グラフシステム」の2件の発表、株式会社学習研究社デジタルコンテンツ事業部からは、「教育系コンテンツの最新動向と提供事例及び今後の展開」と自由研究支援サイト「夏休み自由研究プロジェクト2002」についての発表があった。いずれも、これからの学校教育との関連に興味深いものがあり、いくつかの意見交流が展開され、教員の果たす役割やこれからの資質についての問題も出た。

総括：企画委員会副委員長 山西潤一（富山大学）

最後に、遠隔教育の必要性や問題点の整理などを含めた総括が行われ、これから遠隔教育を進めるにあたって、研究者がなすべきこと、学校が立ち向かわなければならないことなどの提起があり、有意義な2日間の合宿を終えた。

Requirements for Submissions

1. Submission to the English Version

The Educational Technology Research journal (English Version) is published once a year.

(1) Manuscript Classification

Paper – The Paper should be related to Educational Technology and is original in its research methods and results. The content of the Paper should be reliable and beneficial to the development of Educational Technology and academic learning. Try to keep the number of pages to within 10.

Technical Information – A Technical Information is a research survey or a review that is systematically summed up and related to Educational Technology research information and results. Try to keep the number of pages to within 10.

Letter – A Letter is a flash report of experiments and results of a new research attempts related to Educational Technology. Not more than 6 pages.

Short Note – A Short Note is an article about an author's opinion, recommendation or debate related to Educational Technology. Not more than 6 pages.

Translation – An English Translation of a paper that has been published on the Educational Technology Research journal (Japanese version). However, the content must be identical and written in proficient English.

In addition, Letters (or flash report) maybe rewritten as a Paper or Technical Information by enriching the letter's content.

(2) Conditions for Submission

The main part of the manuscript must not be in the process of being published, or have been published or in the process of being submitted to any domestic or international scientific journals, periodicals or commercial magazines. However, an author may compile and submit academic lectures given at research societies or conferences, or oral presentations provided at international meetings.

The authors should adhere that the content and description of the manuscript do not engage in other copyrights, human rights in the research and ethical principles. The authors should consider those issues in their manuscripts.

The manuscript should be written in a manner that can be understood by members of the same field.

At least one member from Japan Society for Educational Technology must be a joint author of the article.

(3) Handling of Submitted Manuscripts

The submitted manuscript will be examined by the Editorial Committee and handled in the following manner:

- A. Accept
- B. Accept under the condition of making minor adjustments
- C. Manuscript will be re-examined after author makes adjustments according to the recommendations by the Editorial Committee
- D. Return manuscripts to the author
- E. *For Papers Only*: Papers may be returned to the author; however, the Editorial Committee will recommend the author to re-submit the Paper as Technical Information.

In the cases of manuscripts that need to be rewritten, manuscripts re-submitted after 5 weeks will be treated as newly submitted manuscripts.

2. Copyright

The copyrights for all manuscripts are automatically transferred to Japan Society for Educational Technology when the manuscript has accepted.

Therefore all authors should understand this copyright policy before submission.

However, authors themselves may use their own manuscripts for the academic or educational purpose in any condition.

Therefore, authors may copy, translate, modify or deliver their own manuscripts, additionally may send to the public, for example using the Internet.

3. Handling of Manuscript and Expenses

When the manuscript is received by the Editorial Office, a notice indicating the reception will be mailed to the author.

Unaccepted manuscript will be returned to the author with a note indicating the reasons for denial.

After acceptance of the manuscript, acceptance will be notified to the author. The author is requested to submit the final version of the paper in the form of electronic file (MS-WORD, Ichitaro, or written text only in Text File).

If the manuscript is submitted in a special type of electronic file and requires extra fee to convert the file, the cost is the author's responsibility.

Extra cost for printing figures and tables is the author's responsibility.

The author is required to purchase at least 100 reprints of the manuscript when published. A separate print charge will be assessed. In addition, authors that publish more than the required number of pages will be charged additional fee.

After the manuscript is accepted, proofreading will be performed one time by the author. No insertions or proofreading other than related to printing errors will be accepted.

Original manuscripts will not be returned to authors.

Instructions for Authors

1. Manuscript Heading Print title ,author's name ,professional affiliation ,and address. The title must be written in a manner so that the content of the manuscript can be understood clearly. Do not add numerical headings such as " No.1". Subtitles are not recommended.

2. Abstract For Papers or Technical Information, an abstract not exceeding 400 words must be provided. Abstracts are not necessary for Letters or Short Notes.

3. Key Words Authors should include five to six keywords for Papers or Technical Information. Keywords are not necessary for Letters or Short Notes.

4. Body of Manuscript Write as follow: **(1)Introduction/Preface:** Explain the experimental background and the reasons for conducting the research. In addition , include a summary of the paper and explain the results concisely. **(2)Content of manuscript:** Diagrams and tables should be used to explain research method (Experimental method , analysis, etc.), results, research findings, comparisons to prior experiments, and preliminary considerations. **(3)Summary/Conclusions:** Provide concise conclusions and results . Itemized results are preferred . In addition , write down any problems to be solved.

5. Foreign Language Besides proper nouns, translate the foreign words as much as possible. However, when a word appears for the first time in the text, use the original term when necessary.

6. Figures and Tables Number tables and figures, i.e. "Table 1," "Figure 1". Insure that each figure and table is properly titled.

7. References List the names of the authors in alphabetical order at the end of the manuscript. Citations within the text should follow the following format:

(i.e.) Sakamoto (1970a) reports... or ...was indicated. (Sakamoto 1970b)

References to articles in journals should include the following in the order given: author's name, year of publication, article title, full title of periodical, volume number (issue number where appropriate), first and last page numbers. References to books should include the following in the order given: author's name, year of publication, title, publisher, place of publication.

8. Footnotes Footnotes should be kept to minimum. If necessary, however, they should be put together just preceding the References with their proper location in the text indicated by raised Arabic numerals, i.e., 1), 2), etc.

9. Writing Style In addition to being written in a clear and lucid style, authors should keep in mind the diverseness of the backgrounds and cultures of the prospective readers. Use Arabic numerals. Superscript and subscript symbols should be cited within the text.

10. Manuscript Presentation Manuscripts should be prepared by using word processors, printed on A4 size paper. The manuscript should include the text, figures, tables, and photographs and submitted in Print Image (camera-ready). One page should be approximately 730 words and formatted double-spaced into two columns. For accepted manuscripts, submit an electronic file (text file) of the manuscript, a hard copy, and the original figures, tables, and photographs. Figures and tables must be camera-ready quality. Each figure and table should be written or typed on a separate sheet of paper and properly numbered and titled.

11. Consideration for Other Copy Rights and Human Rights The manuscript do not engage in other copyrights, human rights in the research and ethical principles, and also should be considered those issues.

12. Manuscript Pages Refer to the Requirements for Submissions for maximum number of pages. One page should be approximately 730 words and formatted double-spaced into two columns. Be aware that the actual figure and table sizes will be determined based on the text size within the figures and tables. In addition, the author's anticipated number of pages may vary depending on the page layout, therefore, make sure to calculate the total number of pages by leaving some room for fluctuation.

13. Procedure for Submission Prepare the manuscript according to this Instructions for Authors and submit to the Editorial Office. **(1)Cover sheet:** List manuscript classification, title, author's name, affiliation, complete address, telephone number, E-mail address. Format is up to the author. **(2)Original manuscript:** Including text, figures, tables, photographs, and English title. **One copy** **(3)Copy:** remove author's name, affiliation, and acknowledgments.

Three copies **(4)Self-Addressed Self-Stamped (80 yen) standard envelopes. Two envelopes**

Authors should keep a copy of the manuscript.

14. Manuscript Submission Send by regular mail (Do not use Registered mail), home delivery service or bring the manuscript directly to the following address:

Editorial Office of Japan Society for Educational Technology
Kikai-kei Kenkyu Jikken-tou (Ishikawadai Area) 4th floor
The Center for Research and Development of Educational Technology
Tokyo Institute of Technology
2-12-1 O-okayama, Meguro-ku, Tokyo 152-8552

お知らせ

徳島大学高度情報化基盤センター教育情報システム研究部門助手の公募要領

公募機関 徳島大学高度情報化基盤センター

身分・人数 助手1名(任期制導入予定、再任可)

専門分野 教育情報システム研究部門

計算機援用教育システム、遠隔教育システム、コンテンツ作成技術、
情報メディア利用技術等の分野

着任時期 平成15年4月1日以前のできるだけ早い時期

応募締切 平成14年11月29日(金)必着

問合せ先 徳島大学高度情報化基盤センター長 大恵俊一郎

電話 088-656-7500 FAX 088-656-9122 E-mail oe@is.tokushima-u.ac.jp

新入会員

(2002年6月9日 ~ 7月20日)

■ 正会員 24名

アガニツブロン ニオン

(Banbung"Manoonwittayakarn"School Nongeroon)

モイセス マルモレホ ルイス

(Escuela Normal Atacomulcu)

稲垣 成哲 (神戸大学)

岩崎 信 (東北大学大学院)

右近 豊 (日本ユニシス株式会社)

宇野 浩三 (高知女子大学)

大島 律子 (中京大学通信制大学院)

大歳 太郎 (茨城県立医療大学)

岡部 成玄 (北海道大学)

熊井 正之 (東北大学大学院)

斎藤 俊則 (慶應義塾大学)

島崎 朝彦 (神奈川県立総合教育センター)

島田 範正 (読売新聞社)

豊田 充崇 (和歌山大学)

中山 伸一 (図書館情報大学)

難波 道弘 (山梨英和大学)

平澤 泰文 (大谷大学)

古谷 次郎 (北星学園大学)

前田 康裕 (熊本大学教育学附属小学校)

三浦 郁夫 (NTTコミュニケーションズ(株))

宮腰 隆 (富山大学)

六角屋 雷太 (ホンダ関西自動車整備専門学校)

森王 範之 (山口大学)

米岡 学 (浦和短期大学)

■ 准会員 3名

岩崎 敬信 (大津南小学校)

小島 瑞木 (日本アイ・ピー・エム株式会社)

才所 征司 (熊本市立日吉東小学校)

■ 学生会員 15名

石野 陽子 (神戸学院大学大学院)

大即 洋子 (東京農工大学)

岡本 恭介 (岩手県立大学)

沖林 洋平 (広島大学大学院)

川端 裕志 (滋賀大学大学院)

駒谷 真美 (お茶の水女子大学)

重田 勝介 (大阪大学)

竹中 真希子 (神戸大学大学院)

田中 秀樹 (静岡大学)

辻 高明 (早稲田大学)

宮崎 謙弘 (静岡大学大学院)

村上 守 (静岡大学)

山中 昭岳 (鳴門教育大学大学院)

吉田 豊 (関西大学)

若林 庸夫 (神奈川県立三崎水産高等学校)

学会日誌

9月28日(土) 研究会「遠隔教育と協調学習による新しい学習環境のデザイン」 (上越教育大学)

11月2日(土) ~ 4日(月) 第18回全国大会 (長岡技術大学)

11月8日(金) 秋の産学協同セミナー (東京大学)

12月14日(土) 研究会「高等教育におけるFDと教育工学」 (早稲田大学)

2003年

1月25日(土) 研究会「教育工学的アプローチによる教科教育の改革」 (和歌山大学)

3月29日(土) 研究会「情報教育における教員研修と授業改革」 (茨城大学)

5月31日(土) 研究会「社会的構成主義指向の教育」 (長崎大学)

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(jet-editor@japet.or.jp)

研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)

ニューズレター編集に関するお問い合わせ・・・ニューズレター編集委員会

(jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp)

その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(jet-office@japet.or.jp)

ニューズレター編集委員会

編集長:坂元 昂, 編集委員長:竹谷 誠, 委員:松居 辰則, 佐々木 整

拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426-65-1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

日本教育工学会ニューズレター No.118

2002年 9月10日 発行人 清水 康敬

発行所 日本教育工学会事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階

TEL / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

http://www.japet.or.jp/jet/ 郵便振替 00180-0-111042